

はにい

メダカの誕生日

平成25年12月3日



子どもたちが見ているのは、メダカの卵です。1ミリくらいの大きさなので、肉眼でも見るができます。

卵は2つずつ、小さな容器に入れられて、子どもたち全員に配られました。容器が転がらないように、滑り止めの輪ゴムが巻いてあります。

今日から子どもたちは、この『自分の卵』を育てるのです。容器を大事にロッカーにしまっておいたり、机の中に入れて時々見たり、ノートのそばに置いて一緒に勉強(?)したり。

「卵がかえる瞬間が見たいな。」

「誕生日はいつだろうね。」

授業が終わると、『自分の卵』を大事に持って理科室を出ていきました。



ところで、卵が配られたこの日の理科の授業は、1時間目に行なわれました。朝までに産まれた受精卵が分裂を始める時間を考慮して、分裂の様子を子どもたちに見せるには、この時間でなければならないのです。

これは今朝産まれた卵です。

ということは、先生はいつ、卵を2個ずつ小さな容器に入れたのでしょうか。

その授業では、顕微鏡の画面が大きく拡大され、今朝産まれた卵が映し出されました。

「あっ！」

卵が動くと歓声が上がります。

「あたりまえだよ、生きてるんだから」

「そうか、生きてるんだよね。」



まさに今、命が形になろうとして蠢いています。

かながわ元気な学校づくり通信 『はにい』は、
学校が元気になるように・・・

先生の仕事を受けて

学校に携わる大人たちがしていることを受けて

そして、子どもたちの育ちを受けとる

そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。

専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp